

令和7年度(2025年度)熊本・上益城地域保健医療推進協議会(要旨)

協議会名：熊本・上益城地域保健医療推進協議会  
開催場所：ウェルパルクまもと1階大会議室  
開催日時：令和8年(2026年)2月13日(金)14:00~15:30  
出席数(委員)：25名(内訳；熊本市14名、上益城11名)

**熊本・上益城地域合同会議**

○第8次熊本・上益城地域保健医療計画の中間評価について

【質疑応答・ご意見等】

丸目委員(市薬剤師会・熊本市)

- ・インフルエンザの季節外流行やインフルエンザB型の増加など近年の変化を踏まえ、コロナだけではなく、総合的な感染症対策が必要。予防の取組にも重点を置くことや、早期検査・早期治療の体制強化を提案したい。今後、例えば、薬局を活用した住民の検査により、家庭内の二次感染の抑制を図る等の新たな検査の仕組みも検討してほしい。

⇒本市においても、近年のインフルエンザの流行形態の変化を認識しており、予防対策の強化を含めた市民への啓発や、新たな対策の検討が必要であると考えている。検査体制及び医療体制については、現在、県の計画において整理が進められているところであり、本市としても、県計画との整合を図りつつ、本市の新型インフルエンザ等対策行動計画及び感染症予防計画等で引き続き、検討を進めていく。(熊本市健康危機管理課)

○第8次熊本・上益城地域保健医療計画における共通項目の令和7年度進捗について

【質疑応答・ご意見等】

大橋委員(上益城郡医師会・上益城)

- ・上益城地域の医療の問題として、医師の高齢化に伴う閉院、医療承継の問題がある。今まで休日当番医は5町で4医療機関を確保し実施していたが、来年度からは医療機関数を3か所に減らし、日曜日は実施するが、祝日は中止する方向。今後、住民や、熊本市内の医療機関、基幹病院への影響をかけることを懸念している。
- ・医療資源の地域偏在(嘉島町は新規開業が多い、一方で甲佐町・山都町は減少傾向)や、今後ますます医療機関の経営は難しくなっている。上益城郡医師会では新規開業医の一部に学校医・当番医等の医師会の活動に協力してもらってるが、他の地域では、当番医等の活動に消極的なこともあると聞いている。

**分科会：上益城地域分科会**

○第8次熊本・上益城地域保健医療計画における上益城地域の令和7年度進捗について

【質疑応答・ご意見等】

大橋委員(上益城郡医師会)

- ・糖尿病について、上益城地域医療糖尿病保健委員連絡会議を実施した。上益城郡は糖尿病専門医がない状況。連携の先生が中心となり研修会をしていただいている。栄養指導の方や歯科の先生、行政とも連携させていただき、若い方を糖尿病予防の対象として、生活習慣から食事など色々な面で改善し、糖尿病にならないよう協力している。
- ・救急医療は地域で十分に賄いきれず、市内の地域機関にお世話になっている。へき地医療は、そよう病院の先生を中心に「医療Maas」という遠隔医療の試みも行われている。
- ・感染症については予防が大事になってくるため、連携をとって行政の方を中心に行っていただきたい。

#### 住永委員（熊本県議会）

- ・質問①参考資料2に、県の数字が入っているが上益城は「県と一体的に取り組む」と記載され、数字が入っていないのはなぜか教えてほしい。

⇒県計画を立てるときに、これまで数値目標を作りそれに合わせて地域単位で作っていたものが第7次までの傾向。第8次になった時に、二次医療圏が熊本市と一体的になったことと、県計画自体が数値目標を立てない項目が多くなった。郡単位では数値化が難しい部分が多くある。県計画と一体的に行うということであえて数値目標を作らないという方向になっている。直接的に数字が出せるものについては提供できるようにしていきたい。（御船保健所）

- ・質問②参考資料2の8枚目の「24時間体制をとっている訪問看護ステーション数」は、令和6年より7年が増えているのはなぜか教えてほしい。どこの病院も厳しいような話を聞く。ある程度数字が出ている方が議論しやすいのではないか。

⇒訪問看護事業所になるため医療機関とはまた区別される。

例えば、「在宅医療の認知度」の分では、策定時の数値は出ているが、県民の意識調査は県全体でしか行わないもののため、エリア毎にその情報の共有ができないというものもある。上益城郡の中でどのくらいの方々が認識されているのかというのは数値化が難しく策定時は何とか出せていたというのはあるが、県民の意識調査が熊本県単位で定期的に行っているもの以外には、個別に調査をかけないといけないものが多いため、あえて表示をしない方向になっている。（御船保健所）

#### 西村委員（上益城郡町村会）

- ・資料4-3 6ページに「飲食店・スーパーと連携し」とあるが、以前町でも取組を行い、あの取組は良かった。スーパー等と連携するのが、食の健康で一番だと思う。
- ・救急医療について、人が非常に足りないが、熊本県全体として熊本赤十字病院や救急医療センター等人が足りなくなったときはどうするのかというのを危惧している。人材確保が非常に大事だと思う。
- ・健康危機管理については、緊急連絡体制など備えが必要。防護服の着脱訓練等をしているが、繰り返ししなければならない。出前講座等もしているということで非常に良いと思う。

#### 門岡（久）委員（上益城郡食品衛生協会）

- ・梅雨時や夏になると、食中毒の注意報や警報が出ますが、どのくらい地域管理で発令されていますか。

⇒県の基準が決まっており、データに基づいて発令されるような仕組みになっている。県の判断とともに保健所はメール・FAXで情報共有される。保健所に看板等を出している。報道資料でマスコミの方を通じてニュースで出させていただくなど、新聞等には掲載されると思う。（御船保健所）

#### その他

【エンディングノートに関するご意見】

#### 西村委員（上益城郡町村会）

- ・上益城版エンディングノートについて、町でも財産や相続についても含めて作成したが、どのようなものが載っているのか教えてほしい。

⇒昨年度、上益城在宅医療サポートセンターが中心になって各町の担当者の御意見を聞きながら作成していただいている。内容は盛沢山になっており、基本情報以外に医療機関や家系図、既往症、持病、アレルギーなどや、自分のお葬式の仕方や財産はどうするかなど、お元気な時に自分のことを客観的に見ていただく機会として、各町の担当者が研修等の機会を使って周知していただいていると聞いている。サポートセンターの方でも講習会

をされているというふうに聞いており、今から皆様の方には周知が進んでいくのではないかと考えている。(御船保健所)

#### 宮崎委員 (特別養護老人ホーム 桜の丘)

- ・エンディングノートの普及啓発は町に任せてあるということか。高齢者施設でも作ろうと、いろいろ取り寄せていたところだが、作られているということは知らなかった。役場に行けばいただけるものなのか教えてほしい。市販もされているが、郡や地域で同じものがあればすごく喜ばれると思う。例えば高齢者施設やデイサービス、地域の集まり等で町の方から勉強会をしていただくとうごくいいと思う。作って終わりではなく、いかに啓発していくかということが大事だと思う。啓発に協力したい。

⇒上益城郡の5町が定期的に合同で研修会を開催されており、連携して研修の場を作られている。エンディングノートがようやく形になったのが昨年度末であり、今年から普及啓発を始められているところ。各町で紙媒体である程度の部数を準備されているとは聞いているため、ご相談いただければよいと思う。(御船保健所)

#### 門岡 (和) 委員 (熊本県食生活改善推進委員連絡協議会御船支部)

- ・町でも講演会があります。やはり大事なことだと思う。土地や相続のこと等色々な問題が出てくる。やはり、早め早めが一番大事と伝えている。

#### 小山委員 (御船保健所)

- ・エンディングノートは、受入れの気持ちもあるため、親御さんたちにどのように伝えていくのが難しいと思う。